



エコ1チャレンジカップ車検手順

- ①車体サイズ確認
- ②ドライバー確認（登録、服装、ヘルメット確認）
- ③構造確認（常時3輪以上が接地し静止時に自立出来る）
- ④ミラーチェック
- ⑤バッテリー搭載確認 & ショート対策（端子保護）
- ⑥配線確認
- ⑦高速回転カバー確認
- ⑧ブレーキ確認



エコ1チャレンジカップ車検手順

①車体サイズ確認

サイズ確認マーカー内に収まる事

全幅
：1.2m以内

全長：3.0m以内

全高：1.6m以内





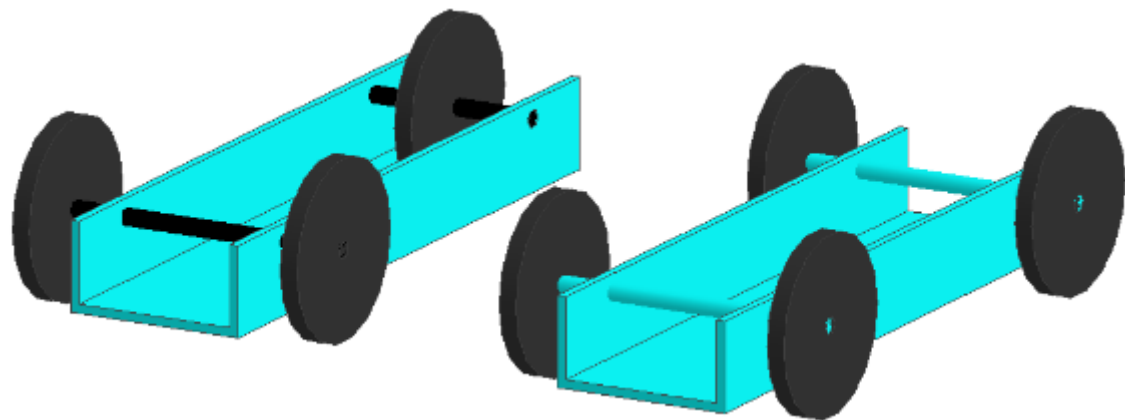
エコ1チャレンジカップ車検手順

- ②ドライバー確認（登録、服装、ヘルメット）
- ・ドライバーに変更がある場合は車検時に申し出て下さい
 - ※全ドライバーは『ドライバーズマニュアル』を熟読しておいて下さい
 - ・長そで、長ズボン、グローブ、シューズ確認します
 - ・ヘルメット確認（ジェット型またはフルフェイス）
 - ※ミラーチェック時のみ装着して下さい
 - ※感染症対策の観点から、装備は一人1セットの準備を推奨いたします



エコ1チャレンジカップ車検手順

- ③構造確認（常時3輪以上が接地し、静止時に自立可能）
安全確保の為、3輪以上で自立できる事
※停止時に自立できないと転倒の恐れがある



常時3輪以上接地であっても
自立できない場合はNG

○：常時3輪以上接地で自立可能

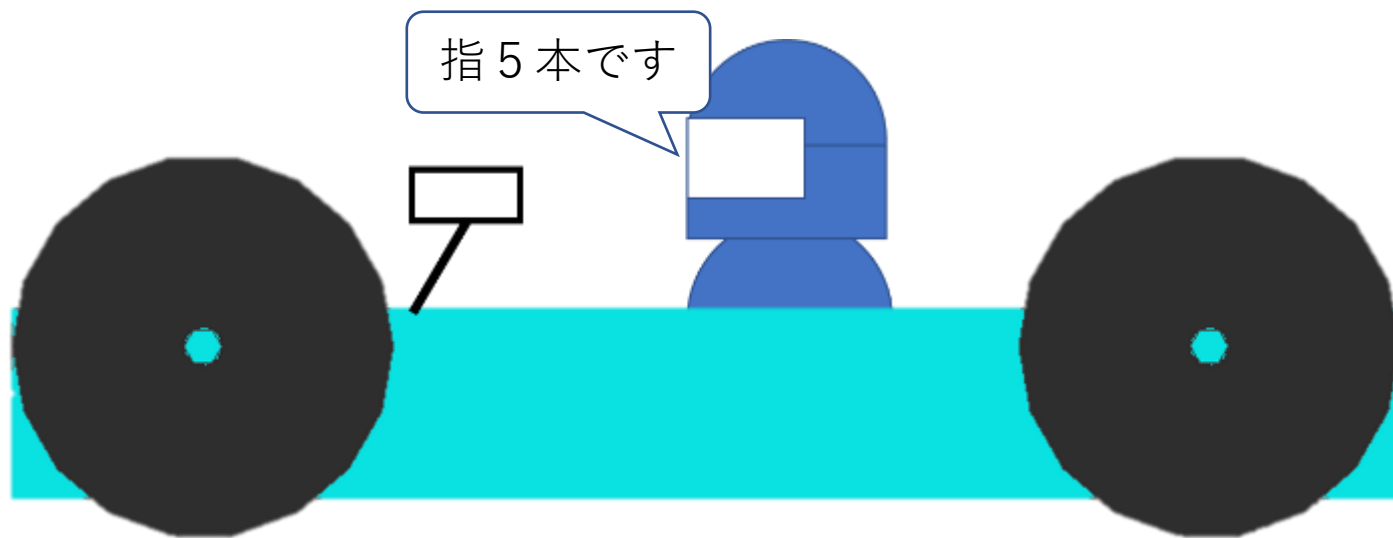
×：3輪以上接地無し
または自立不可能



エコ1チャレンジカップ車検手順

④ミラーチェック（後方確認）

後方の車両を正しく確認できるかミラーチェックします
きちんと見えるようにミラー調整しておいて下さい



車検員が後方で指を示します
指の本数を答えて下さい

走行中は『目視』 & 『ミラーチェック』で周囲をよく確認しましょう



エコ1チャレンジカップ車検手順

⑤バッテリー搭載確認&ショート対策（端子保護）

バッテリー固定が不十分だと走行中落下など大変危険

※バッテリーは重量物のため、キチンと固定できていないと走行中に脱落の危険があります

<推奨バッテリー搭載方法>

- ・バッテリーををふた付きのプラスチックケース等に入れる
※隙間は緩衝材などで埋めて動かないようにする
- ・更にケースを車体に固定する
車体にはボルト固定、ケースにはナイロンベルト等での固定を推奨

<バッテリーサイズ>

113mm×70mm×高さ85mm／個



エコ1チャレンジカップ車検手順

- ⑤バッテリー搭載確認&ショート対策（端子保護）
バッテリーには＋と－の端子部があります



<端子保護>

バッテリーの端子が露出している状況は
とても危険です（持ち運び時も）

絶縁テープなどで

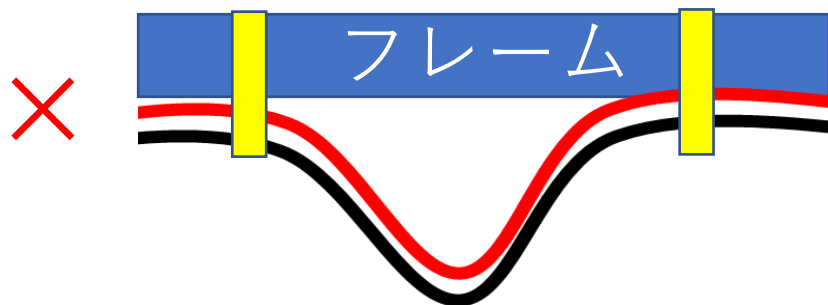
＋、－端子部を覆って、ショートしないように
保護しましょう



エコ1チャレンジカップ車検手順

⑥配線確認

電気配線が『ブラブラ遊ばない』ように固定して下さい
引っかけなどによる断線、ショート、感電の恐れ
があります



絶縁テープ、タイラップなどで
まとめましょう

※ドライバー乗り降り時の引っかけ注意！

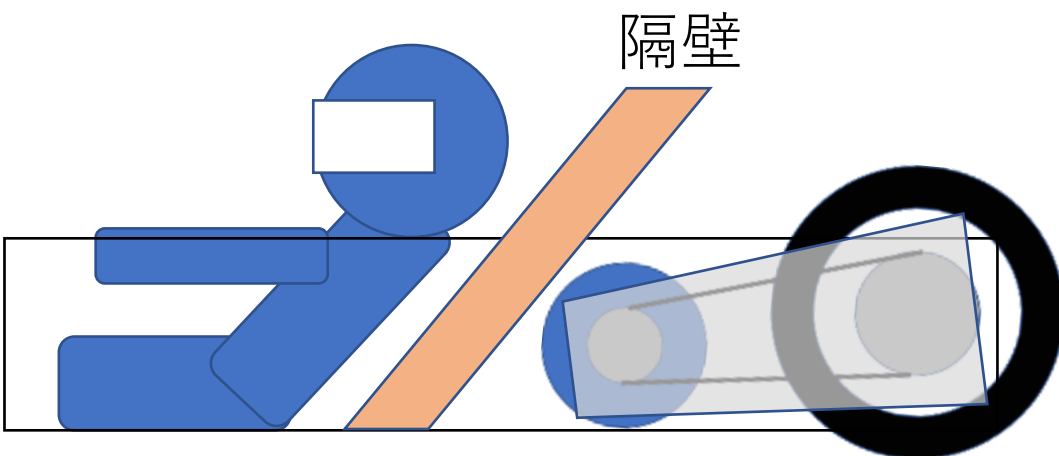


エコ1チャレンジカップ車検手順

⑦高速回転カバー確認

モーター、チェーン、スプロケット、ギヤなどの
高速回転体にカバーが無いと

ドライバー乗降時の巻き込まれ、配線巻き込まれ危険



チェーンカバー

<アドバイス>

- ・チェーンカバーなど回転部を保護する
- ・ボディカウルや隔壁を設置して
ドライバーが巻き込まれないようにする

※特に足元と高速回転体が近い場合は要注意
カバーMUST、ズボン裾注意、配線固定

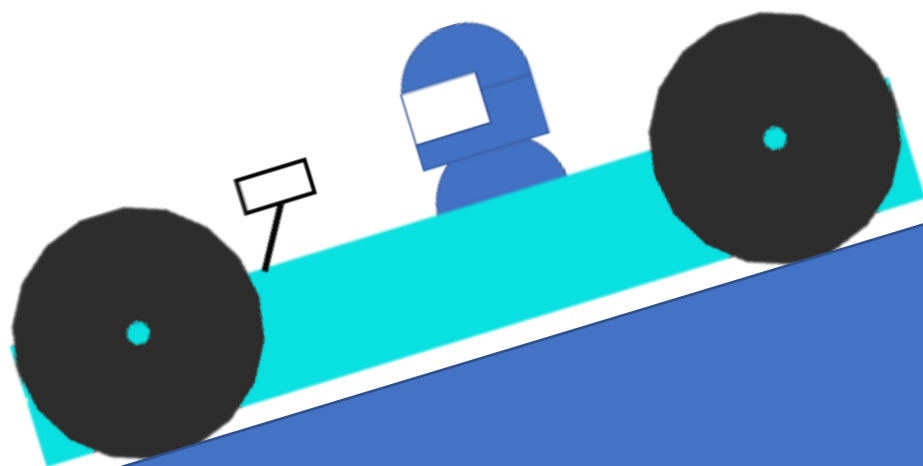


エコ1チャレンジカップ車検手順

⑧ブレーキ確認

ブレーキにて安全に停止出来る事を確認

スロープ部にてタイヤをまっすぐ向けて実施



<アドバイス>

自転車用リムブレーキの場合
リムをしっかり拭きましょう
油分が残っていると制動力が
低下します